

「第2回 高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾」活動報告

佐々木 洋平 (公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会)

1. はじめに

「高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾」は、兵庫県立人と自然の博物館と公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、台北市立動物園、財団法人台北動物保育教育基金會の4機関による共催で、一昨年に初めて実施されました。

このツアーは、次世代を担う高校生が海外の自然環境の中で、研究者と一緒に生物の調査・研究の手法を、体験を通じて習得することで、自然科学分野での視野を広げると共に、現地の高中生との交流により、国際的な感覚を身につけることを目的として企画されたものです。

2. 概要

(1) 日 程 : 2017年8月1日(火)から8月5日(土) 4泊5日

(台風の影響で、6泊7日の予定から2日間日程を短縮)

(2) 場 所 : 台北市立動物園内各所・東眼山自然教育センター

(3) 参加者 : 日本の高校生17人(兵庫11人、大阪3人、京都1人、奈良1人、鹿児島1人)

と台湾の高校生20人のほか、兵庫県立人と自然の博物館ならびに台北市立動物園の
研究員、国際花と緑の博覧会記念協会ならびに同動物園スタッフ、看護師 15人

(4) 内 容 : 日本および台湾からの参加高校生に対し、兵庫県立人と自然の博物館の研究者(5名)と台北市立動物園の研究者・スタッフ(4名)計9名が同行しました。具体的には台湾北部のフィールドで、動物や植物、昆虫を観察・採集するなどして本格的な生物相の調査、そして生態研究の現場を体験すると共に、研究員それぞれの専門分野の視点から、得られたデータの見方や考察の進め方についても指導、解説を受けました。加えて日台の高校生の交流の機会も多く設けられ、異なる文化的背景を有し、母国言語も異なる生徒たちの間で、相互理解とコミュニケーション能力の向上が図られました。

3. 主な活動内容 (今回のツアーで実施した様々な活動の中から、主なものをご紹介します)

(1) キノボリトカゲの食性調査

事前に捕獲しておいたキノボリトカゲの口にスポイトを入れて、生理食塩水を一度胃に流し込んだあと、その水をもう一度スポイトで吸い取ることで、極力トカゲを傷つけずに胃内容物を取り出し、その食性を解明する調査を経験しました。



(2) コウモリトラップの設置とコウモリの観察

夜間に、コウモリの通り道に楽器のハーブによく似たトラップを仕掛け、そこに引っかかり、落下して捕獲袋に収まったコウモリを朝に回収しました。そして捕獲されたコウモリを対象に、体長の測定やDNA調査のためのサンプル(飛膜小片)採取の実演を見学しました。



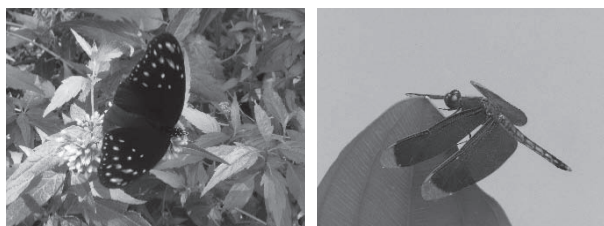
(3) コケ植物の採集と標本づくり

東眼山自然教育センター周辺でコケ植物を観察・採集し、センターの施設に持ち帰って形態的特徴を観察するとともに、標本づくりを体験しました。



(4) 日中に活動する動物の観察

日中の観察で甲虫やチョウやトンボなどの昆虫類や、鳥類など、私たちの住む日本本土では見ることのできない、色あざやかな生きものたちを多く観察することができました。



(5) 夜間観察

東眼山と台北市立動物園の両方で、ライトトラップに集まって来た様々な昆虫を観察しました。また、ライトで照らしながら遊歩道を歩き、夜行性のカエルやヘビなども、数多く観察しました。



(6) 班ごとのポスターの製作と発表

参加 37 名の高校生が、日本人と台湾人の混合の 8 つの班に分かれて、4 日間で印象に残った生き物についてポスターを製作し、発表しました。

製作時間が 1 時間と限られる中で、片言の英語や身振り手振り、スマートフォンの翻訳機能などを駆使しながら、必死でコミュニケーションをはかり、各班とも、1 枚のポスターを作り上げました。



4. まとめ

今年も参加した高校生の大半が海外渡航経験がなかったことから、現地での見たことのない生きものとの遭遇に加え、異国での生活や交流においても、日々、大きな刺激を受けていることが感じられました。

また、このツアーに参加したことで、同じ志を持つ友人ができたことに、大きな喜びを感じることが、帰国後の彼らの笑顔から伝わってきました。

次年度以降も今年の反省を生かしつつ、有意義なツアーの実施を心掛けたいと思います。

